

1. 葛西臨海公園の状況 鈴木弘行

葛西では常連のクロツラヘラサギ【写真】は、この冬にいままでの最高の5羽が確認されました。これまでの最大数は4羽で2008年の8月に記録されています。スズガモは一昨年冬には最大数約15,000羽、昨冬は約25,000羽、今冬は約10,000羽と減少傾向が続いています。カンムリカイツブリは、2019年度に個体数が劇的に減少しましたが、2020年度から急激に回復し、ここ3年間は10,000羽前後記録されています。



クロツラヘラサギ 鈴木弘行氏撮影

2. 中央防波堤埋立地 三間久豊

東京港に浮かぶこの地で今冬、計12回(昨年11月から今年3月まで)のカウント調査を実施しました。この間記録した種類数は76種。うちカモ類は15種類、シギチドリ類は8種類でした。以下、特記事項を何点か紹介します。その際、珍鳥三種揃い踏みの写真が撮れました【写真】

① ソリハシセイタカシギ(第一回冬羽个体、1羽)が12月18日から3月12日まで、およそ3ヶ月にわたりここに滞在しました。当地での記録は4回目ですが、越冬記録ははじめてです。



クロツラヘラサギ(左) ソリハシセイタカシギ(中央) ツクシガモ(右) 三間久豊氏撮影

② アカアシシギが1羽当地で越冬しました。近年越冬域の北上が指摘されていますが、まさしくその事例となりました。(バードリサーチ・日本野鳥の会「全国鳥類越冬分布調査報告」参照)

③ ツグミが例年より数倍多く越冬しました。12月まではほとんど姿がありませんでしたが、1月に入って100羽を大きく超える群れが入り、そのまま3月に到りました。これまで、厳冬期は10~30羽、春の渡りの時期直前に50羽を超えるというのが例年のパターンですので何か特異なことのように思えました。この冬は、ツグミが極端に少ない地域がありました。場所場所で大きな偏りがあったということでしょうか。シメも同様に思えます。

④ その他 当地として稀な種の記録としては、ミヤマガラス(1月15日、幼鳥1羽・当地初記録)クロツラヘラサギ(1月22日、若い个体2羽) コミミズク(1月15日および2月12日各1羽) ツクシガモ(1月15日~2月12日、3羽) コジュリン(3月5日2羽および同12日1羽) などがあります。また通例厳冬期に記録が稀なセッカを2月に最大4羽を観察しました。